

中四国地連と九州地連で 女性協定期大会 開かれる



女性協議会

* 中四国地連 *

10月25日、在広島局・四国二局の新旧の執行委員と地連の委員長・執行委員、労連本部女性協から一六名の参加で中四国地連女性協



中四国地連女性協定期大会に参加のみなさん

10月25日、在広島局・四国二局の新旧の執行委員と地連の委員長・執行委員、労連本部女性協から一六名の参加で中四国地連女性協定期大会を開催しました。大会でははじめに各単組からの報告を行いました。その中で、近年女性アウソーの契約社員採用が多くなる中、七年ぶりに正社員アウソーが入社した局や、契約アウソーが社員化された局の報告がありました。しかし、一方では、女性アウソーや障害者の年契約社員が入社したなど、年俸制度や契約社員、再雇用制度のバツつきなど雇用形態の多様化が各社で進んでいる様子がうかが

●女性協 URL
<http://www.minpororen.jp/women/index.html>

がえました。ほかにも、体の健康及び心の健康を崩して職場を離れている人がいたり、仕事に繁忙で健康診断も受ける人が少ない局も報告されました。健康を害している人達が増えている中、各社の健康診断についての情報が交換されました。

続いて中四国地連方針についての説明では、今回の年末闘争については「売上の悪いので賃金カット」といふ会社の言い分が争点となりました。会社に対しては、社員のモチベーションを維持させるための回答を追求していく。女性管理職については女性社員の採用を要求していくことが女性の管理職を増やすことにつながっていくとの話がありました。また、「単組の機関紙の中に女性の話題を載せていくっていい」と言われ

ば女性の機関紙を発行してほしい」との要望がありました。最後、大会は、2007年度財政報告、2008年度財政予算案及び新役員の出選、そして6月に行われた「全国女性のつどい」収支報告があり、満場一致で採択されました。

2007年度の中四国地連女性協定期大会は、全国女性のつどいに集中した一年でした。三〇数名の実行委員(広島ホムテレ労組)

* 九州地連 *



第35回定期大会

九州地連女性協定期大会に参加のみなさん

九州地連女性協定期大会第三五回定期大会は、10月25日(土)、26日(日)の二日間、福岡市で開かれ、一七単組・労連・地連からあわせて五名が参加して行われました。

冒頭、九州地連女性協の米満議長が「昨年より女性協の議長になり、みんなが集まって問題点を討議する場が大切だと改めて感じた一年だった。みんなが集まって、各単組の問題をひとつひとつ解決していくことが大事」と挨拶しました。

一日目は、単組報告と討論で、時間が足りないほど様々な問題が報告されました。女性正社員の採用が少なくない、女性の社員外スタッフの増加が一層進んでいる、セクハラ問題などです。なかには「(放送局は)子育てに向かない職場だから」と退職した女性の例も

報告されました。放送局が子どもを生み育てるという最も人間らしい生活さえも普通におくることのできない職場としたら、私たちが生み出す商品「放送が人間的に普通の子供を持つたものになり得るでしょう」と白熱した議論でした。

また、08年の方針について、要求に「育児・介護休業の有給化」を追加して全会一致承認されました。今後、女性の数が少なくなる中で、さらに声を上げることが難しくなることがないよう、結束を確かめ合った一日間でした。

新年度の三役は次のとおりです。

議長 米満 香里

(大分放送労組)

副議長 鬼塚 幸子

(九州朝日放送労組)

書記長 平川 尚子

(九州朝日放送労組)